

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和2年度分)

<県の評価等>

施設所管部名:子ども・福祉部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県視覚障害者支援センター(津市桜橋二丁目 131 番地)
指定管理者の名称等	社会福祉法人三重県視覚障害者協会 会長 児玉千春
指定の期間	平成 28 年4月1日～令和3年3月 31 日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・点字刊行物及び視覚障がい者等用の録音物を利用に供すること。 ・点訳及び音訳のボランティア活動の育成及び支援に関すること。 ・視覚障がい者の日常生活及び社会生活に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び支援を行うこと。 ・センターの施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務 ・その他センターの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R元	R2	R元	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B			機器の管理や点検を定期的に行い、適切な施設管理を行うとともに、不要となった物品の整理・廃棄と、物品の再配置を行うなど、環境整備に努めており、管理業務を支障なく実施している。
2 施設の利用状況	B	B			各種講習会等の開催やボランティアによる利用、サウンドテーブルテニスへの使用等、積極的な施設の利用促進が図られており、図書等の貸出数と生活訓練の参加者数についても成果目標を達成した。
3 成果目標及びその実績	B	B			<p>成果目標は、2項目の目標とも達成している。また、指定管理者が独自に設定した達成目標に関しては、10項目のうち7項目が目標を達成している。</p> <p>達成目標の点訳奉仕員養成講習(初級)修了者数、音訳奉仕員養成講座修了者数及び奉仕員スキルアップ講習会出席者数は、それぞれ目標に届かなかった。特に点訳奉仕員養成講習は、今後、参加者増加の取組などさらなる注力をしていく必要がある。</p>

※「評価の項目」の県の評価：
 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>・図書館業務については、より多くの分野の蔵書を増やすこと等に努めた結果、点訳・音訳刊行物の制作数は372タイトルであり、指定管理者が独自に設定した達成目標(300タイトル)を達成した。また、成果目標の図書等貸出数は97,750タイトルであり、目標(80,000タイトル)を達成した。</p> <p>・生活訓練については、個々のニーズに応じた様々な個別訓練を実施しており、参加者数は延べ527人で成果目標(500人)を達成している。特に福祉機器の使用訓練はニーズが増大しており、更なる対応が期待される。</p> <p>・10項目ある達成目標のうち、点訳奉仕員養成講習初級修了者数(目標20人、実績6人)、音訳奉仕員養成講座終了者数(目標20人、実績15人)、スキルアップ講習会出席者数(目標330人、実績154人)の3項目で目標を達成できなかったが、他の7項目で目標を達成している。</p> <p>以上のことから、三重県視覚障害者支援センターの指定管理者として適切に管理・運営を行っていると判断する。</p> <p>今後は、近年利用が増加しているサピエ図書館(点字図書や録音図書の全国最大の書誌データベース)への対応や、ニーズが増大している福祉機器の使用訓練への対応など、視覚障がい者のニーズに応じたサービスの提供を図るとともに、目標を達成していない点訳・音訳奉仕員の養成については、さらなる広報の充実等、受講者数の増加に向けた取組を積極的に推進する必要がある。</p>
--------	---

<指定管理者の評価・報告書(令和2年度分)>

指定管理者の名称: 社会福祉法人三重県視覚障害者協会

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

① 三重県視覚障害者支援センター事業の実施に関する業務

- ・点字図書等の貸出(20,287タイトル)、サピエ図書館ダウンロード(77,463タイトル)の合計 97,750 タイトルの図書貸出を行った。(成果目標 80,000 タイトル)
- ・生活訓練については、個々の障害に応じた個別訓練を延べ 527 人に実施した(成果目標 500 人)。
- ・指定管理者が独自に設定した達成目標については、10 項目中7項目で目標を達成した。

① 図書の製作編集 タイトル数

目標 300 タイトル、実績 372 タイトル、達成率 124%

② 図書だより発行 回数

目標6回、実績 12 回、達成率 200%

③ 点訳奉仕員養成講習(初級) 開催日数

目標5日、実績6日、達成率 120%

④ 点訳奉仕員養成講習(初級) 修了者数

目標 20 人、実績6人、達成率 30%

⑤ 点訳奉仕員養成講習(中級) 開催日数

目標 20 日、実績 20 日、達成率 100%

⑥ 音訳奉仕員養成講座 開催日数

目標 40 日、実績 40 日、達成率 100%

⑦ 音訳奉仕員養成講座 修了者数

目標 20 人、実績 15 人、達成率 75%

⑧ スキルアップ講習会 出席者数

目標 330 人、実績 154 人、達成率 47%

⑨ 県政だより点訳版・録音版 発行回数

目標 12 回、実績 12 回、達成率 100%

⑩ みえ県議会だより点訳版・録音版発行回数

目標7回、実績7回、達成率 100%

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

施設管理では、機器の管理や点検を定期的に行った。

③ 県施策への配慮に関する業務

ア. 人権尊重社会の実現

小中学生を対象に、センター見学と小中学校訪問を実施し、視覚障がい者福祉の啓発活動を行った。(センター見学 3校 86 人 小中学校訪問 17 校 2,018 人)

イ. 男女共同参画社会の実現

三重県視覚障害者協会の理事に3名、評議員に5名の女性を登用し、センターの運営や方針の決定過程における男女共同参画の推進を図った。

ウ. ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

視覚障がい者に対する情報保障を行うとともに、補助犬受け入れ啓発事業を行っている。また、三重県視覚障害者協会の会員がUDアドバイザーとして活動している。

エ. 次世代育成支援の推進

小中学生を対象とした視覚障がい者福祉への理解促進を実施した。

オ. 環境保全活動の取組

コピー用紙の再生紙購入、廊下や使用していない部屋の消灯に努めるとともに、録音テープのリユースや不要となった廃棄点字図書のリサイクル等に取り組んだ。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

「三重県視覚障害者支援センターの管理に関する情報公開実施要領」及び「三重県視覚障害者支援センターの管理に関する文書整理保存要領」に基づき実施した。

令和2年度の開示請求は、前年度と同じく0件であった。

個人情報保護については「三重県視覚障害者支援センターの管理に関する基本協定書」第 11 条の「個人情報の保護に関する事項」を遵守するとともに「個人情報保護に対する基本方針」及び「個人情報保護規定」により対応した。

⑤ その他の業務

該当なし

(2) 施設の利用状況

- ・施設利用登録者数は前年度から7人減少し、826 人となった。
- ・当センターの事業である点訳奉仕員講習会、音訳奉仕員講習会等に使用するのももちろんのこと、ほぼ毎日のように点訳ボランティア・音訳ボランティアが当センターを訪れ、点訳作業・音訳作業等を行っている。
- ・点訳グループや音訳グループの研修会や活動打ち合わせ等にも活用されている。

2 利用料金の収入の実績

該当なし

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R 元	R2		R 元	R2
指定管理料	46,246,000	46,309,000	事業費	9,257,236	9,796,034
利用料金収入	0	0	管理費	37,000,201	36,748,130
その他の収入	371	124	その他の支出	0	0
合計 (a)	46,246,371	46,309,124	合計 (b)	46,257,437	46,544,164
収支差額 (a)-(b)	△ 11,066	△ 235,040			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	・図書貸出タイトル数 80,000 タイトル ・生活訓練参加者数 500 人
成果目標に対する実績	・図書貸出タイトル数 97,750 タイトル (点字図書等貸出 20,287 タイトル、サピエ図書館ダウンロード 77,463 タイトル) ・生活訓練参加者数 527 人 (歩行 221 人、家事管理 25 人、福祉機器 168 人、点字指導 88 人、料理教室9人、家庭生活0人、社会資源活用 16 人)

今後の取組方針	<p>視覚障がい者のニーズに的確に応えられる三重県視覚障害者支援センターとして、職員の資質向上を図ることをはじめとして、センターの運営にとってかけがえのないボランティアの育成・確保、レベルアップに努めていく。</p> <p>図書関係については、幅広く、より多くの分野の蔵書を増やすことや、図書のデジタル化を積極的に推進していくとともに、サピエ図書館の利用拡大を図っていく。一方、点字については、固定的な利用者も多く、利用者のニーズを反映した対応を考えていく。</p> <p>また、中途視覚障がい者の増加に合わせ、生活訓練・指導の業務の充実を図っていく。</p> <p>今後は、①サピエ図書館を含め、利用者のニーズに沿った蔵書数の充実、②ボランティアの育成・確保、レベルアップ、③パソコンが使える視覚障がい者を増やすため、IT関係事業の充実、④市町・医療機関と連携した生活訓練・指導等の充実、⑤大規模災害発生に備えて、センターの果たすべき役割の明確化、関係者への働きかけ、視覚障がい者への啓発等について、効率的、効果的な方策を検討していく。</p>
---------	---

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R元	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B	・施設や備品の管理、使用状況は良好であり、機器類の管理を適切に行い、事故防止や機器の故障による業務停滞が生じないよう運営を行った。
2 施設の利用状況	B	B	・点字図書館部門については、サピエ図書館利用件数と直接貸出数とも昨年度より増加しており、利用状況は大変順調である。 ・毎日多くの点訳、音訳、ITサポーターなどのボランティアがセンターを訪れ、作業や各種会合研修等に利用している。 ・スポーツ活動促進の一環としてサウンドテーブルテニスの愛好者にも利用されている。 ・引き続き試行している土曜開館については、専門相談員への相談や、土曜日を中心に活動する音訳ボランティアグループの利用が定着してきている。
3 成果目標及びその実績	B	B	・成果目標については、図書貸出タイトル数と生活訓練参加者数ともに目標を達成できた。 ・指定管理者が独自に設定した達成目標については、10項目中7項目で達成できた。

※評価の項目「1」の評価： 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価： 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期目の指定管理者として最後の5年目にあたり、過去の点字図書館管理運営事業、盲人センター管理運営事業等の実績を生かしながら業務運営を行ってきた。 ・デジ化の進捗への対応等、時代要請に沿った事業振興ができるように努めてきたところであるが、特にボランティアの育成・確保などに課題もある。 ・視覚障がい者にとって唯一といえる県下全域の公の施設であることを十分認識して、数多くのボランティアに支えられ、三重県視覚障害者支援センターとしての役割を果たしてきたが、より一層の認知度向上、内容の充実を図り、県内の視覚障がい者のセンター利用者はもとより、点訳、音訳のボランティア等多くの一般県民サポーターも含めたセンター利用者のためのセンターになるように、より一層努めていく。
--------	--

